

学校経営の重点	中期目標	短期目標	項目番号	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策等
					達成状況	評価	考察	評価	
基礎基本を身に付け、学ぶ意欲を高める。 確かな学力づくり	わかる喜びを味わえる学習指導の工夫改善	国語科でのTTにより、基礎基本を確実に身に付けさせる指導を行う。	①	・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価80%以上	・アンケート結果：教職員86%、児童100%の肯定的評価あり。	B	・小規模校のよさにより、行き届いた運営が行われている。他校との交流でそれが補われる工夫がある。 ・集合学習により、学習意欲の高まりがうかがえ、わかりやすい授業の工夫がなされている。 ・集合学習により、仲間意識を持ち、元気・やる気・本気で向上しつつある。	A	・跡市小学校と、今年度の集合学習についての振り返りの場を持ち、来年度の見通しや活動の改善に努めるようにする。 ・集合学習において、特別支援学級児童の参加の仕方や内容について新年度の集合学習開始までに、具体的な改善策を打ち出し、跡市小とも共通理解を図る。 ・具体物を使つての授業や操作活動等を取り入れるなどの授業改善に努めるとともに、指導の重点化を図る。
			①	・教職員、児童、保護者のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・跡市小学校と集合学習の効果について情報交換の場を設ける。	・アンケート結果：教職員86%、児童88%、保護者100%の肯定的評価あり。 ・10/16, 11/27, 12/11と3回計画実施した。2校間でも校内でも情報交換の場を設けず。	B			
			① ⑧	・教職員、児童、保護者のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・各学級とも、年間1回以上授業研究を行う。 ・研究テーマに沿った取組を実践記録にまとめる。	・アンケート結果：教職員86%、児童100%、保護者90%の肯定的評価あり。 ・研究授業（1年10/23 34年9/2 56年7/3 たんぽぽ11/17 なかよし11/22）年1回以上の研究授業を行った。 ・研究論文「思いをもち生き生きと表現する児童の育成」 12/21 下書き 1/9 清書 1/16 論文提出	A			
			①	・教職員の自己評価で、肯定的評価80%以上	・アンケート結果：教職員86%の肯定的評価あり。	B			
	学習姿勢、学習習慣づくり	朝の時間を活用した、学習姿勢・学習習慣づくりを行う。 家庭と連携した学習習慣づくりを推進する。	①	・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価80%以上	・アンケート結果：教職員100%、児童94%の肯定的評価あり。	A	・適正に自己評価されている。	A	・今後も「有温小元気っ子カード」を継続的に実施していく中で、児童や保護者への具体的指導資料として活用していく ・今後も全校漢字計算テストを継続実施していくが、漢字テストについては、偶数学年は2年間のまとめと
			①	・教職員、児童、保護者のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・学習、生活習慣の実態調査を実施し、児童への個別指導と家庭への働きかけを行う。	・アンケート結果：教職員100%、児童100%、保護者80%の肯定的評価あり。 ・夏休みや冬休みなどの長期休業の前に保護者や児童に指導チェック表（有温小元気っ子カード）を配布し働きかけた。懇談会で説明の時間をもち、呼びかける。	A			

確かな学力づくり	基礎基本を身に付け、学ぶ意欲を高める。		読み・書き・計算の力・読書力を確実に身につけさせる。	①	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の全校漢字計算テストで、全校児童が80点以上 ・学級での再テスト実施で、全員の定着を図る。 ・教職員、保護者のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・月毎の目標読書冊数～低学年12冊、中学年10冊、高学年9冊 ・年間読書冊数目標～低学144冊、中学年120冊、高学年108冊 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果：教職員100%、保護者90%の肯定的評価あり。 ・漢字計算テストで、平均80点以上に達していない状況が若干ある。 ・月ごとの読書冊数実績～低学年8/12冊、中学年7/10冊、高学年7/9冊 ・年間の読書冊数実績～低学年96/144冊、中学年84/120冊、高学年84/108冊 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・3学期から西部読書普及センターから図書を借り受け、読書週間中に児童が図書に触れる機会を増やすように取組を始めている。 ・次年度からは、毎月の読書週間設定に併せて、さらに計画的、重点的な取組ができるようにしていく。
		ふるさと教育の推進	地域素材を積極的に取り入れた学習指導を行う。	①	<ul style="list-style-type: none"> ・市からの年間配分時間45時間以上の活用を図る。 ・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月現在34時間活用 残り11時間(3学期に1年2時間 3・4年4時間 5・6年4時間 たんぽぽ2時間 12時間活用予定)45時間以上の活用を図ることが可能 ・アンケート結果：教職員100%、児童100%の肯定的評価あり。 ・人・もの・ことの一覧表の作成と積極的な活用を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のよさの発掘、伝統文化に習い継承したいと願うほど誇れるふるさととして受け止めてほしい。この取組に大きな意義を認めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用については、今後も積極的活用を努めるとともに、新たな人材発掘に努めていく。 ・各学年でとりあげるふるさと教育の題材がパターン化しないように、地域の新たな動きに関する情報を収集しながら、題材の開発に努めていく。
			体験的・問題解決的な学習活動を取り入れ、学習意欲を高める工夫をする。	①	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・ふるさと教育フェスティバルに向け、各学級での学習成果をまとめて紙上発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果：教職員86%、児童93%の肯定的評価あり。 ・ふるさと教育フェスティバル紙上発表(1年花作り 3・4年 有福温泉伝説・石見神楽 5・6年有福温泉歴史・元気プログラム)の予定 	A		

* 表中の「項目番号」は、文部科学省が示した「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」において、評価項目、指標の例として示した10項目の番号に対応する。

【①教育課程・学習指導 ②生徒指導 ③進路指導 ④安全管理 ⑤保健管理 ⑥特別支援教育 ⑦組織運営 ⑧研修 ⑨保護者、地域住民等との連携 ⑩施設・設備】

* 評価の段階は、(A:90パーセント以上 B:70～90パーセント C:50～70パーセント D:50パーセント未満)又は(A:よい B:まあまあよい C:あまりよくない D:よくない)とする。

学校経営の重点	中期目標	短期目標	項目番号	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策等
					達成状況	評価	考察	評価	
豊かな心づくり 心のこもったあいさつ・言葉遣いを身に付け、自尊感情を高める。	明るく礼儀正しい生活の定着	あいさつやTPOに応じた言葉遣いができるように指導する。	②	・教職員、児童、保護者、地域代表のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・取組強化期間を学期ごとに設定し、重点的に取り組む。	・アンケート結果：教職員100%、児童100%、保護者80%、地域代表86%の肯定的評価あり。 ・4月、9月を強化期間として取り組んだ。	A	・学校では大きな声であいさつができていますが、地域ではあいさつが消極的に感じる。学校・家庭での指導が必要。	A	・児童の生徒指導に関する情報を共有し、共通理解を図りながら取り組めるよう、生徒指導委員会の充実を図る。 ・児童間の人間関係をめぐる諸問題について、現状把握に努めながら、いじめの根につながる要因の排除に心がけていく。
		生活目標が生かせるように、児童の活動を支援する。	②	・教職員のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・月1回以上、生徒指導に関する職員会を設定し、生活目標の取組状況等について共通理解を図る。	・アンケート結果：教職員100%の肯定的評価あり。 ・毎月第1回目の職員会を生徒指導に関する職員会として設定し、月の重点指導事項と生活目標を確認し、取り組みについて話し合った。	B			
	人権意識を高め、お互いを認め合う気持ちを養う。	命や人権を大切にする心を育て、助け合い、励まし合う学級集団づくりをすすめる。	②	・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価80%以上	・アンケート結果：教職員100%、児童56%(誰とも仲良く遊んでいるか)・81%(いじめられたり、仲間はずれにされたことがあるか)の肯定的評価あり。	C	・人権同和教育の研修会の保護者の参加について、増加はしているようであるが、地域の方の参加について工夫を要する。	B	・今年度の研修会への保護者の参加者は、前年度に比べ増加したものの、まだ限られた人数であるのが現状である。研修内容や実施時期、参加の呼びかけなどについて見直していく。
		人権・同和教育に関する研修を計画的に実施し、家庭や地域に発信する。	② ⑧	・教職員、保護者のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・人権・同和教育に関する校内研修を年間3回以上実施する。 ・人権・同和教育の授業を保護者に公開し、研修会を実施する。	・アンケート結果：教職員100%、保護者100%の肯定的評価あり。 ・8/18.10/10に研修実施。3学期にも実施予定 ・10/13の授業公開日に実施。	A			
	安心して過ごせる学校生活	教育相談や朝スポーツ・全校遊びを通して、児童理解を深める。	②	・教職員の自己評価で、肯定的評価80%以上 ・教育相談週間を年間2回以上設定し、全校児童との教育相談を実施する。 ・全校外遊びの際の記録をとり、児童理解の資料として活かす。	・アンケート結果：教職員100%の肯定的評価あり。 ・6/13～16,11/6～10に教育相談週間を設定し、教育相談を実施。 ・毎週火曜日業間に外遊びを実施し、その際の記録を毎回とり、生徒指導職員会で、児童理解の資料として活用した。	A	・適正な自己評価がなされている。	A	・各学期1回の教育相談を定例化し、個々の情報を生徒指導職員会で共通理解を図るなど、児童理解を深める。
		子どもの話をしっかりと聞き、温かく接するよう努める。	②	・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価80%以上	・アンケート結果：教職員100%、児童94%の肯定的評価あり。	A			

*表中の「項目番号」は、文部科学省が示した「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」において、評価項目、指標の例として示した10項目の番号に対応する。

【①教育課程・学習指導 ②生徒指導 ③進路指導 ④安全管理 ⑤保健管理 ⑥特別支援教育 ⑦組織運営 ⑧研修 ⑨保護者、地域住民等との連携 ⑩施設・設備】

*評価の段階は、(A:90パーセント以上 B:70～90パーセント C:50～70パーセント D:50パーセント未満)又は(A:よい B:まあまあよい C:あまりよくない D:よくない)とする。

学校経営の重点	中期目標	短期目標	項目番号	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策等
					達成状況	評価	考察	評価	
健康を育み、命を守る力を高める。 健やかな体づくり	体育科授業の充実と体育的活動工夫	体育科授業の中で、基礎基本を大切にし、子どもたちに身につけさせ、技能を高める。	①	・スポーツテストの結果から目標の数値化を図る。 ・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価 80%以上	・平成19年度新体力テストにおいて、全種目で、全国平均値を上回る児童数の割合 50%以上、スポーツテストの結果、取組みについては資料参照 ・アンケート結果：教職員 86%、児童 94%の肯定的評価あり。	C	・個々のデータにより、教育方法が工夫されている。 ・児童のデータは、発達はどうであったか客観的な比較のできる方法とされるとよい。	B	・スポーツテスト結果の分析から、本校児童の体力面での課題が明確になった。教科体育をはじめとする体育的活動を通して、課題の改善に向けて取り組む。
		朝スポーツや全校遊びなど、児童の体力づくりや運動習慣づくりに努める。	① ⑤	・教職員、保護者のアンケートで、肯定的評価 80%以上	・アンケート結果：教職員 100%、保護者 100%の肯定的評価あり。 ・計画的な朝スポーツ、業間外遊びの実施。外遊びが少し増加し、委員会の児童による昼休み全校外遊びへの広がりもみられた。	A			
	基本的な生活習慣の育生と朝のくらしの充実	保健指導を通して、生活習慣改善への指導を行う。	① ⑤	・教職員、保護者のアンケートで、肯定的評価 80%以上	・アンケート結果：教職員 100%、保護者 100%の肯定的評価あり。	A	・朝のチェック表をうまく使用することによって、生活習慣の育成をされている。また、保護者の意識改革になっている。	A	・「朝のめざめがんばり表」の取組については、長期休業明けに実施していたものを、毎月の月初めの実施に切り替えた。来年度は、年間を通して毎月の実施としながら、望ましい生活習慣の確立が図られるようにする。 ・「有温小元気っ子カード」の取組とともに、児童や保護者への具体的な指導資料として活用を図る。
			朝のくらしのチェック項目の徹底など、基本的な生活習慣の育成を図る指導を行う。	⑤	・「朝のめざめがんばり表」の結果から、目標の数値化を図る。 ・「朝のめざめがんばり表」の結果から、個別指導を行う。 ・教職員、児童、保護者のアンケートで、肯定的評価 80%以上	・朝のくらしのチェック項目のうち「ウンチをする」を除いた5つが、学校に登校する日においてほとんどできている者（1週間のうち6日以上できている）者が90%以上 ・「朝のめざめがんばり表」の取組、結果、目標の達成状況については資料参照 ・アンケート結果：教職員 100%、児童 100%、保護者 100%の肯定的評価あり。			
		朝スポーツや全校遊びを、児童の外遊び奨励につなげる。	⑤	・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価 80%以上 ・毎週火曜日の業間休みを「全校外遊び」として位置づけ取り組む。	・アンケート結果：教職員 100%、児童 100%の肯定的評価あり。 ・「全校外遊び」を12回実施	A			
	健康で安全な教育環境づくりと自己防衛能力の育成	計画的な安全点検や校舎内外の教育環境整備に配慮し、健康で安全な環境づくりに取り組む。	④	・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価 80%以上 ・毎月の安全点検の実施と、年間2回以上児童と職員による安全点検を実施する。	・アンケート結果：教職員 72%、児童 94%の肯定的評価あり。 ・毎月の安全点検実施、児童と職員による安全点検を6月・11月に実施	B	・適正な自己評価がなされている。	B	・放課後の課外活動参加後の下校時刻が遅くなり、時季によっては薄暗くなってから下校する状況があるため、冬季の生活時程を設けることで、課外活動実施日も午後4時30分の下校ができるように改善する。
			登下校の安全や避難訓練・防犯教室等を実施し、自己防衛能力の育成を図る。	④	・教職員、児童、保護者のアンケートで、肯定的評価 80%以上 ・登下校における児童の防犯ベル着用率 100%	・アンケート結果：教職員 86%、児童 100%、保護者 90%の肯定的評価あり。 ・防犯ベル着用に対する意識は向上しているが、100%着用には至っていない。			

学校経営の重点	中期目標	短期目標	項目番号	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策等
					達成状況	評価	考察	評価	
人とかわる力を高め、共に生きる喜びを持たせる。	人とかわる力を高める。	開校50周年記念フェスティバルに向けた、ふるさと学習を計画的に進める。	① ⑨	・教職員、保護者、地域代表のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・学習の取組成果に基づいた内容の発表を行う。	・アンケート結果：教職員100%、保護者100%、地域代表100%の肯定的評価あり。 ・1年「ふたりのマリーゴールドちゃん」生活科 3・4年「ハロー！この町」総合 5・6年たんぼぼ「有福温泉歴史探検」総合学習の取組成果に応じた内容の発表を行った。	A	・地域や他校との交流で、小規模校の運営を補う工夫がうかがえる。 ・素晴らしいフェスティバルであったが、地域の参加が少なく残念に思った。PR不足。	A	・今年度は、子どもフェスティバルやふるさと教育フェスティバルでの成果発表という具体的な目標があった。次年度も、具体的な取組の成果を発表できる場を設定する。
		交流を深める視点から、跡市小学校との集合学習に取り組む。	②	・教職員、児童のアンケートで、肯定的評価80%以上	・アンケート結果：教職員86%、児童88%の肯定的評価あり。	B			・50周年記念フェスティバル参加者から「地域住民の参加が少ないのでは」という意見があった。今後は、地域代表者への案内状送付だけでなく、全戸回覧によるお知らせをしていく等の改善を図る。
		地域との連携を図り、運動会を計画・実施する。	⑨	・教職員、保護者、地域代表のアンケートで、肯定的評価80%以上 ・運動会実行委員会との連携を密に取る。	・アンケート結果：教職員100%、保護者90%、地域代表100%の肯定的評価あり。 ・8/8 運動会実行委員会に校長・教頭・土井参加（公民館） 9/6 運動会実行委員会に校長・教頭・土井参加（公民館）連携を図った。 ・当日の参加者（保護者・地域住民・来賓）対象のアンケート結果資料あり。	A			
	共に生きる喜びを持たせる。	特別な支援が必要な児童に対し、指導計画を立てて個別指導を行う。	⑥	・教職員自己評価で、肯定的評価80%以上	・アンケート結果：教職員86%の肯定的評価あり。	C	・特別な支援を要する児童へは、個別指導計画がぜひ必要で、達成度をチェックし手立てを工夫したい。	B	・個々の児童の実態把握（学習・生活・人間関係）に努めながら、必要な児童に対しては、具体的な個別支援ができるようにしていく。
			地域のお年寄りとの交流学習を計画し、温かいふれあい体験をさせる。	① ⑨	・教職員自己評価で、肯定的評価80%以上 ・敬老会やにこにこ給食等、地域での活動に積極的に参加する。	・アンケート結果：教職員86%の肯定的評価あり。 ・9月23日（土）敬老会に参加、5月9日（火）12月12日（火）にこにこ給食に参加			B

*表中の「項目番号」は、文部科学省が示した「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」において、評価項目、指標の例として示した10項目の番号に対応する。

【①教育課程・学習指導 ②生徒指導 ③進路指導 ④安全管理 ⑤保健管理 ⑥特別支援教育 ⑦組織運営 ⑧研修 ⑨保護者、地域住民等との連携 ⑩施設・設備】

*評価の段階は、(A:90パーセント以上 B:70~90パーセント C:50~70パーセント D:50パーセント未満)又は(A:よい B:まあまあよい C:あまりよくない D:よくない)とする。

学校経営の重点	中期目標	短期目標	項目番号	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策等
					達成状況	評価	考察	評価	
学校づくり	家庭・地域社会とつながり、よりよい教育を提供する学校づくりをすすめる。	必要な時期に必要な項目で学校評価を実施し、学校改善に生かす。	⑦	・教職員、保護者、地域代表のアンケートで、肯定的評価 80%以上 ・アンケート項目等について、事前に内容について検討する。	・アンケート結果：教職員 86%、保護者 90%、地域代表 100%の肯定的評価あり。 ・項目等検討～6/26・8/2・8/18・10/2の職員会及び職員作業	B	・評価項目設定は大変難しいと思われるが、その後の運営内容につながる。	B	・各短期目標に対する成果指標や取組指標設定について、さらに工夫を加えていく中で、客観的な自己評価ができるように工夫する。
		学校運営に教職員の意見を反映させ、保護者や地域住民・児童の意見を取り入れる。	⑦	・教職員、保護者、地域代表のアンケートで、肯定的評価 80%以上 ・自己評価等の結果をもとに、改善策について全職員で協議する場を持つ。	・アンケート結果：教職員 71%、保護者 90%、地域代表 79%の肯定的評価あり。 ・今年度の学校評価集約(12/25) 今後、外部評価委員会からの評価を受け、今後の改善策検討を2月末までに実施予定	B	・学校のアピールにつながるものを加える必要はないだろうか。		・各対象に実施した自己評価のためのアンケート調査項目について改めて工夫し、より効果的なものに改善をしていく。
		保護者や地域住民が、教育活動を参観できる機会を設ける。	⑦ ⑨	・教職員、保護者、地域代表のアンケートで、肯定的評価 80%以上 ・地域に案内して行う参観の場を、年間3回以上実施する。	・アンケート結果：教職員 100%、保護者 90%、地域代表 100%の肯定的評価あり。 ・ふれあい運動会(9/24)、子どもフェスティバル(11/19)、決意発表会(1/28 実施の予定)	A			・学校で行う主要行事に、地域の方に多数参加いただけるための工夫をしていく。
	教育情報の効果的活用	個人情報を含む教育情報を有効に活用し、適切に保存・管理する。	⑦	・教職員自己評価で、肯定的評価 80%以上 ・教育情報（個人情報）の保存・管理をマニュアル化し、その徹底を図る。	・アンケート結果：教職員 86%の肯定的評価あり。 ・12月11日の職員会で「校内電子情報安全対策基準」を提案し、個人情報を含む電子情報の保存・管理をマニュアル化する。	B	・教育情報の保存管理マニュアルの作成だけでは不十分に思える。	B	・学校ホームページを活用した情報発信の在り方について検討するとともに、学校評価結果の公表も行えるように整備を図る。
		学校だよりや学級通信を計画的に発行し、教育方針や学級の様子等を伝える。	⑨	・毎月1回以上、たよりを発行する。 ・保護者や地域代表へのアンケートで、肯定的評価 80%以上	・学校だより毎月発行 ・学級通信発行状況〔1年：74号 3・4年：103号 5・6年とたんぼ学級：11+4号〕 ・アンケート結果：保護者 90%、地域代表 100%の肯定的評価。	A	・毎月の学校だよりなどから、学校の活動や児童のがんばっている様子が紹介され、よくわかる。		・保育園からの新入生に関する情報交換の場が、入学直前の1回のみであるので、入学後に授業参観も併せた機会を設定する。ふれあい運動会での鼓隊交流も、入学後の様子を見てもらえる場として位置づける。
		保小連携・小中連携・地域関係団体など、学校間や関係機関との連携を図る。	⑨	・保小連絡会を年2回実施する。 ・小中連絡会を年2回実施する。 ・三校連絡協議会を年2回実施する。	・該当保育園から新年度入学予定者について情報収集予定〔3月末〕 ・青陵中との情報交換会 7/5 ・進学説明会 1/31 ・小中連絡会 3月末 ・三校連絡会実施 7/10、12/6 ・市学警連絡協議会出席 12/15	B			

	予算の効率的な執行と教育条件の整備	保護者負担経費は、用途を明確に知らせる。	⑦	・教職員、保護者アンケートで、肯定的評価 80%以上	・アンケート結果：教職員 100%、保護者 100%の肯定的評価。 ・5/1 学校集金計画書を作成し、全職員の共通理解を深めた。 ・学級会計支出稟議書を統一し、用途をより見えるようにした。	A	・適正な自己評価がなされている。	A	・支出稟議書を学級会計用と教材費用とに分けて別様式にする。
		備品や教具を有効に活用し、その整備に努める。	⑩	・教職員、児童アンケートで、肯定的評価 80%以上 ・定期的に、職員から備品や消耗品の購入希望をとり、予算と照らし合わせながら必要品が充足するようにする。	・アンケート結果：教職員 100%、児童 88%の肯定的評価あり。 ・6/12 各会計の予算説明、8/31 各会計の1学期執行状況報告、運動会等行事ごとの予算提示、決算報告等、学校の財務を明らかにしながら購入希望をとり、予算の有効活用に努めた。	B			・来年度も、職員から備品や消耗品の購入希望をとり、予算と照らし合わせながら必要品が充足するようにしていく。

*表中の「項目番号」は、文部科学省が示した「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」において、評価項目、指標の例として示した10項目の番号に対応する。

【①教育課程・学習指導 ②生徒指導 ③進路指導 ④安全管理 ⑤保健管理 ⑥特別支援教育 ⑦組織運営 ⑧研修 ⑨保護者、地域住民等との連携 ⑩施設・設備】

*評価の段階は、(A:90パーセント以上 B:70~90パーセント C:50~70パーセント D:50パーセント未満)又は(A:よい B:まあまあよい C:あまりよくない D:よくない)とする。